

ROYAL

平成18年12月期 決算説明会

平成19年2月22日

ロイヤルホールディングス株式会社 (銘柄コード:8179)

目 次

《第1部》

- Section 1 平成18年12月期 決算サマリー**
- Section 2 成長戦略 進捗と方向性**
- Section 3 平成19年度の取り組み**

《第2部》

- Section 4 平成18年12月期 実績報告**
- Section 5 平成19年度 業績予想**

《第1部》

Section 1 平成18年12月期 決算サマリー

3

決算サマリー

平成18年12月期 決算サマリー

中期経営計画に沿った増収は実現したが、収益力増強にバラつきあり

【百万円】

	H18実績	H18.8.23 公表予想値	対予想比
売上高	116,199	116,000	+ 199 (+ 0.2%)
経常利益	4,563	5,300	▲ 737 (▲ 13.9%)



4

Section 2 成長戦略 進捗と方向性

5

成長戦略

中期経営計画“NEXT 50”進捗状況

事業基盤の拡大およびインフラの整備は順調に進捗中

経営基本方針

外食企業から“食”&“ホスピタリティ”グループへの転換

<従来>

<中期経営計画>

現時点の評価

中央集権的企業体質

分権型経営への移行

○ マネジメントインフラの整備
△ 企業体質の変革

中核事業「ロイヤルホスト」
への高い依存率

バランスの取れた
事業ポートフォリオの構築

○ M&Aによりポートフォリオ改善
○ ホテルの成長も改善に貢献

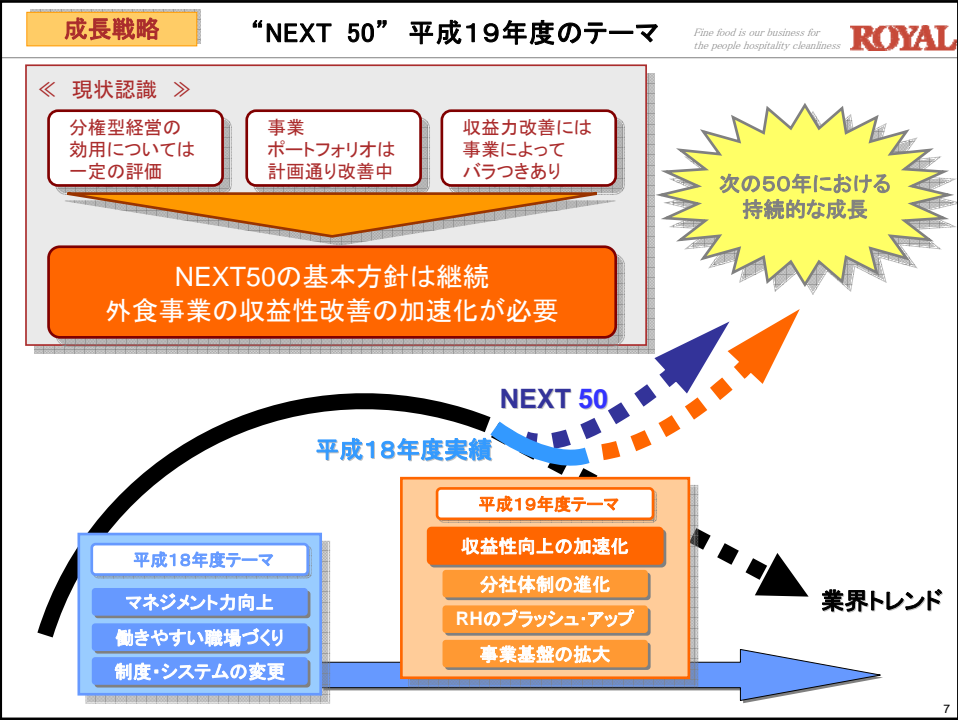
改善途上の収益性

全事業部門を対象とした
収益性の更なる改善

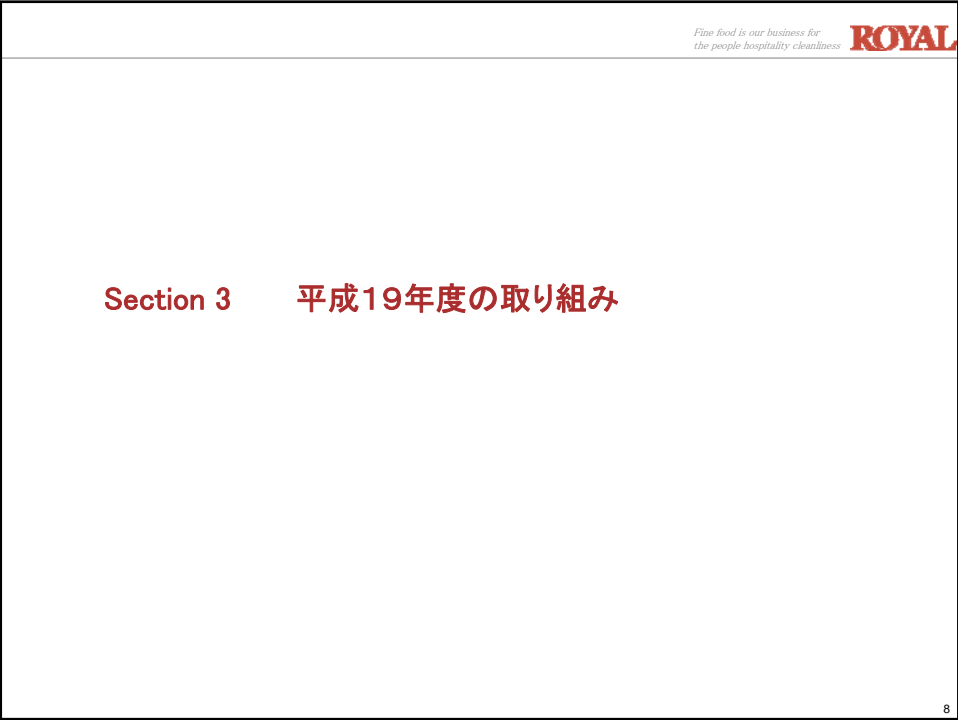
○ ホテル・機内食は安定推移
× 外食・食品で伸び悩み

質の高い食/サービスの提供により持続的な企業価値の向上を図る

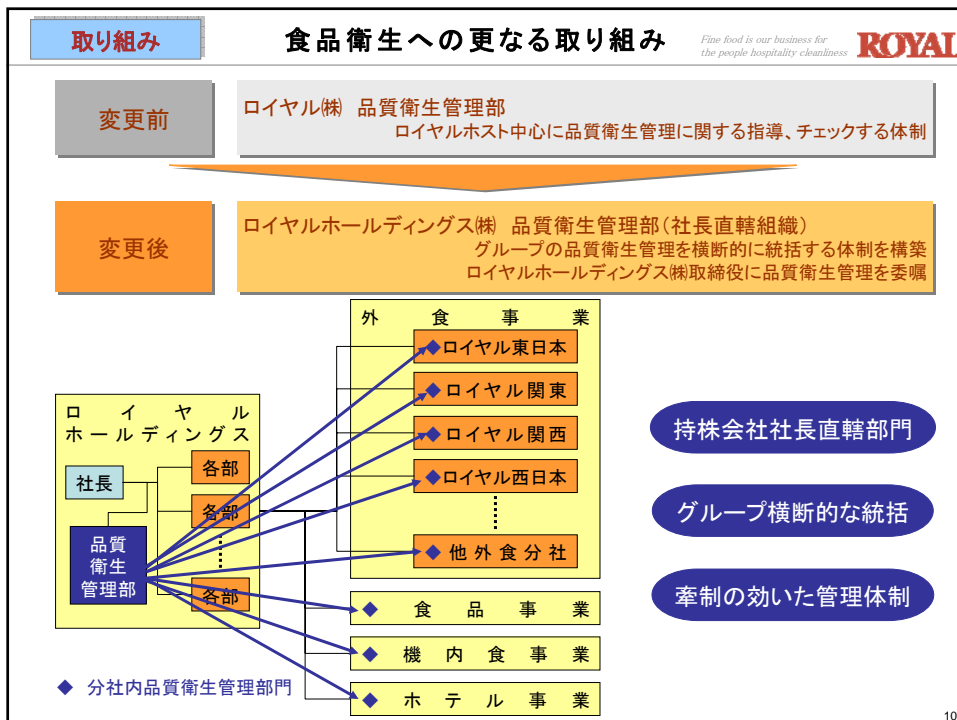
6

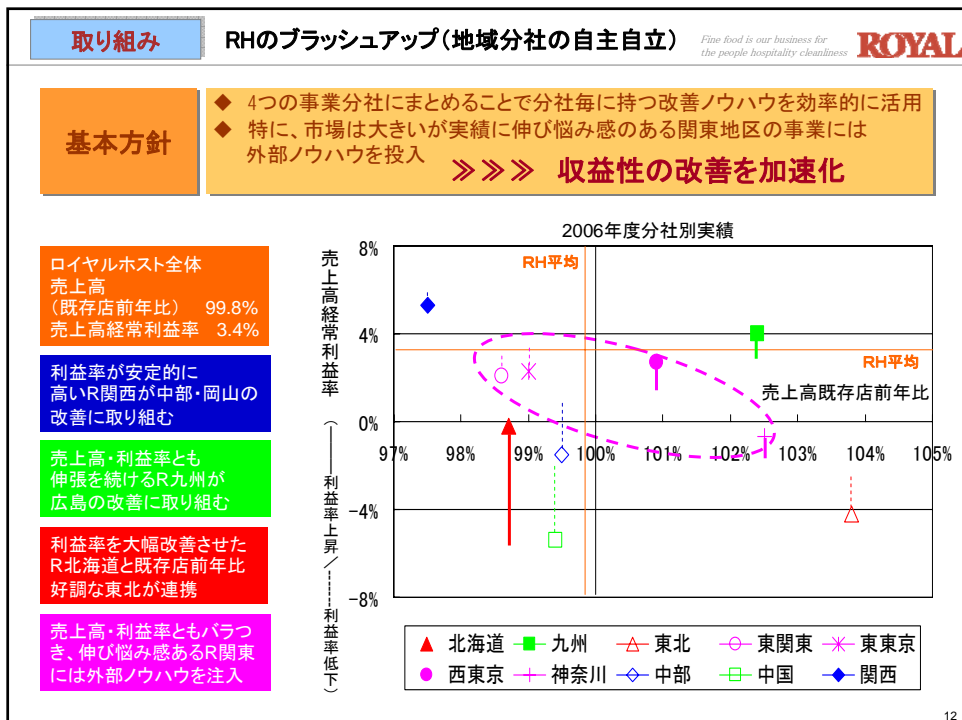
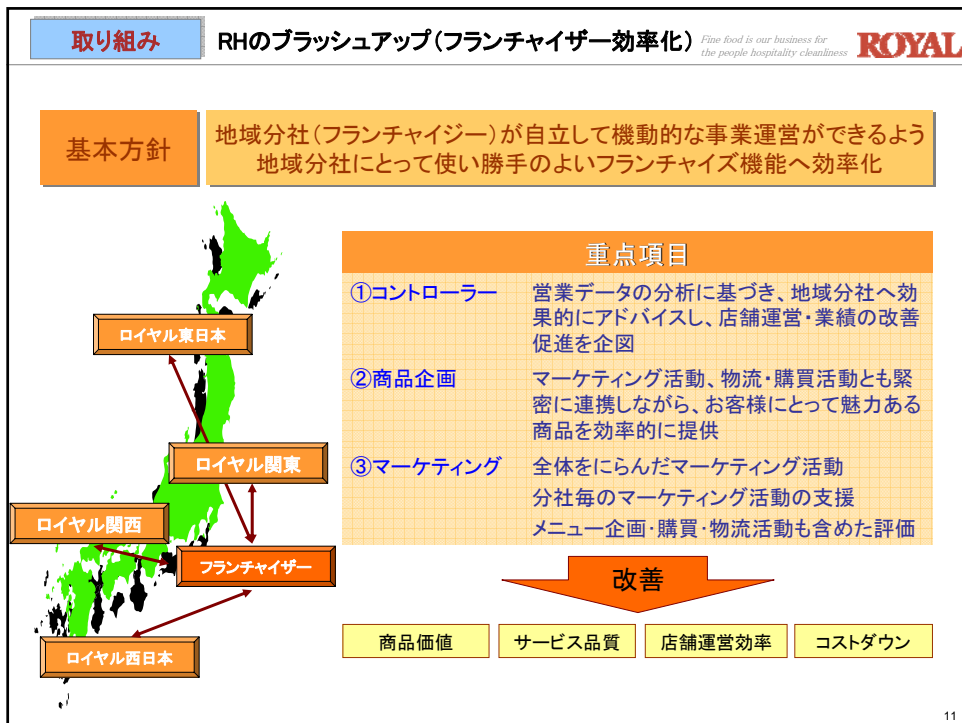


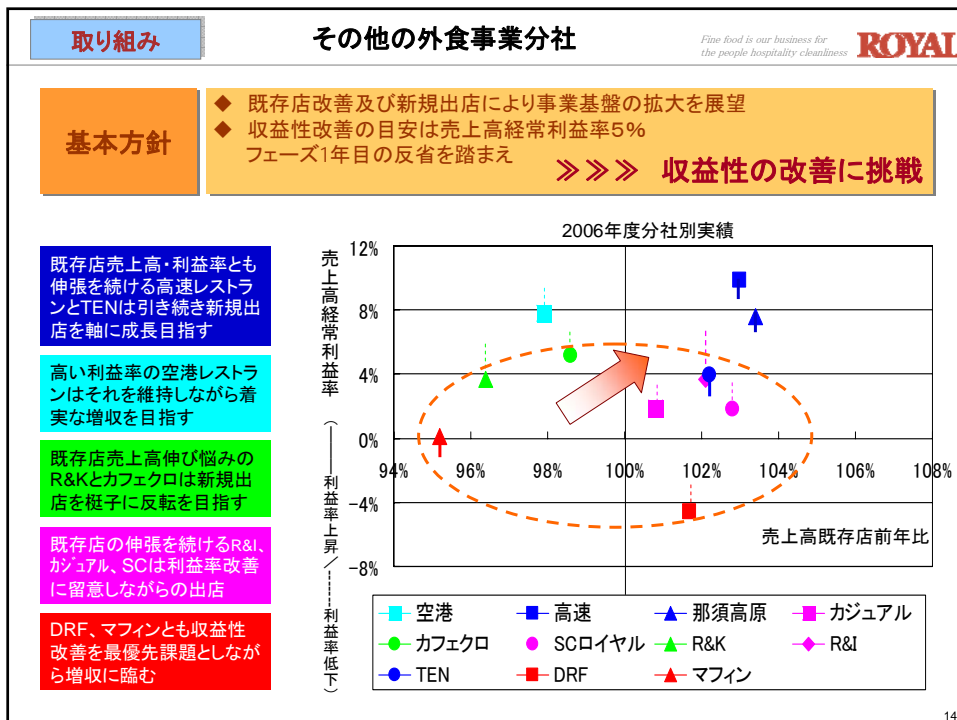
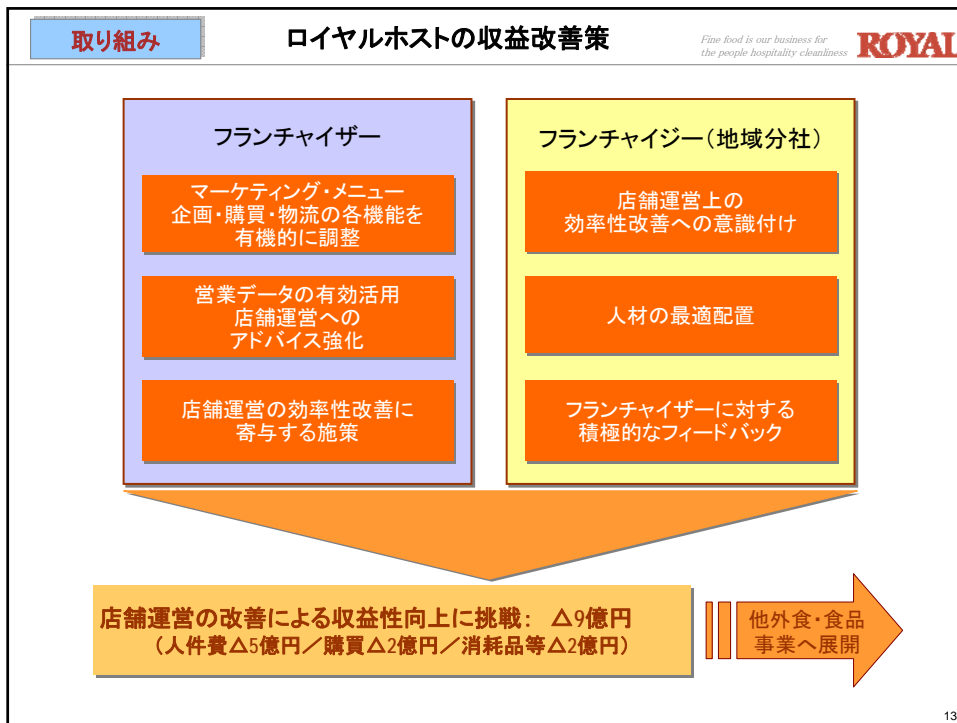
7



8







ホテル事業



※出典: J.D. パワー アジア・パシフィック
2006年日本ホテル宿泊客満足度調査TM。
当部門の調査対象は料飲施設および宴会/
会議施設のある正規宿泊料金最優格帯
15,000円未満かつ最多客室面積25㎡未満
のホテル。直近1年間に宿泊したホテルに關
して6,176名から回答を得た結果。
www.jdpower.co.jp

- 平成19年度より、事業展開を加速化
 - ✓ H19 福岡天神・長崎思案橋・福島駅前・高知(新店4)
 - ✓ H20 山形駅前、武蔵小杉、仙台駅前他(新店6)
- 新ブランド「RICHMOND HOTEL」の展開
- CS向上に努め 更に進化したホテル造り

ロイヤルホテルズは、J.D. パワーによる2006年日本ホテル宿泊客満足度調査の『1泊15,000円未満部門』において、第1位を受賞^(※)。調査は、「客室」「ホテルスタッフ」「ホテル施設」「ホテルサービス」「予約」「料金」「F&B(料飲施設)」「チェックイン/チェックアウト」の8つのファクターに関する宿泊客の評価をもとに宿泊客満足度を測定

機内食事業



航空会社の動向、テロ等ビジネス環境としては引き続き不安定で、競争も厳しいが、

- ⇒ 既存 : 品質・効率性を追求し競争力維持
- ⇒ 新規 : 関空・福岡空港発に限らない

新たなビジネスの開拓にも取り組む

食品事業



グループ内販売

- ✓ RHフランチャイザーの取り組みとも連携、外食事業分社の競争力向上に寄与するような商品供給に注力

グループ外販売

- ✓ 引き続き商品企画、販路の開拓にも取り組む
例)ロイヤルホストブランド商品の販売拡充

(株)DBレストランの株式取得 ⇒ 百貨店内レストラン事業の拠点拡充

百貨店という拠点特性を活かした事業の展開
〔 今後も安定した集客を図れる拠点と評価 〕



(株)DBレストランの
事業発展・運営効率化

ロイヤルグループが培ってきた
ノウハウ・インフラの活用
〔 外食事業のノウハウ シェアードサービス機能 〕



《株式会社DBレストラン》

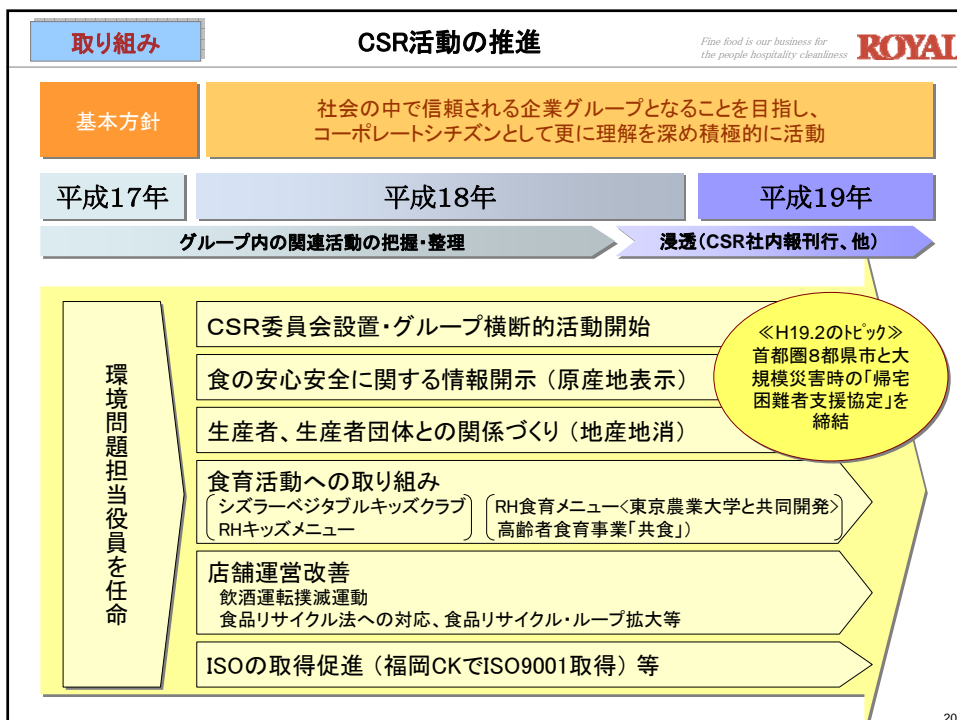
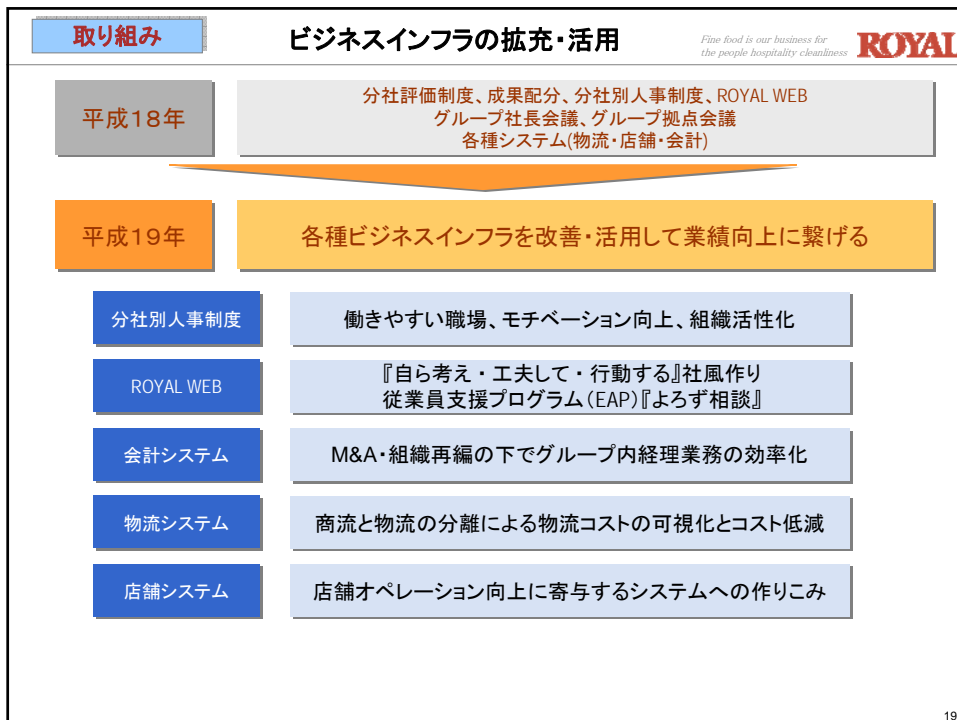
設立予定: 平成19年4月2日
資本金: 10百万円
出資比率: 66.6%(ロイヤルホールディングス株)
事業内容: 飲食業
(三越内レストラン、社員食堂、他)
事業所数: 60店舗
従業員数: 約213名
売上高: 5,980百万円(H18/2期実績の合算)

【百万円】		売上高	:	営業利益	:	のれん償却 (5年償却)	:	貢献額
		4,915	:	247	:	▲ 93	:	154
<small>(注) (株)テンコーポレーションは、平成18年6月22日をもって、支配力基準に基づく連結子会社に異動になりました。</small>								
		4,550	:	192	:	▲ 163	:	29
<small>(注) (株)伊勢丹ダイニングは、平成19年1月1日をもって、アールアンドアイダイニング(株)へ商号変更致しました。</small>								
		4,716	:	143	:	0	:	143
計		14,181	:	582	:	▲ 256	:	326

17

【取り組み】		事業基盤の拡充 ～海外進出～		Fine food is our business for the people hospitality cleanliness		ROYAL
新たな市場に事業基盤を確立する為に北京現地法人を設立						
<ul style="list-style-type: none"> •国内における外食事業の縮小 •これまでの事業展開において培われたノウハウと経験の蓄積 			➔	<ul style="list-style-type: none"> •国民の生活水準が上昇 •サービス産業の成長性大 •ノウハウと経験を成長市場に投入 		
会社名: 北京楽雅餐飲管理有限公司 資本金: 1百万米ドル 出資者: ロイヤルホールディングス(株)100% 設立日: 平成19年1月10日 事業内容: レストラン運営、その他の事業						

18



《第2部》

Section 4 平成18年12月期 実績報告

実績報告

平成18年12月期 決算サマリー

機内食事業以外で増収達成(M&A効果大)・収益性の改善にはバラつきあり

【百万円】

	H18実績	H17実績	前年同期比較
売上高	116,199	101,533	+ 14,666 (+ 14.4%)
営業利益	4,180	4,674	▲ 494 (▲ 10.6%)
経常利益	4,563	5,014	▲ 451 (▲ 9.0%)
当期純利益	1,653	3,395	▲ 1,742 (▲ 51.3%)

《売上高》

146億円(14.4%)の増収

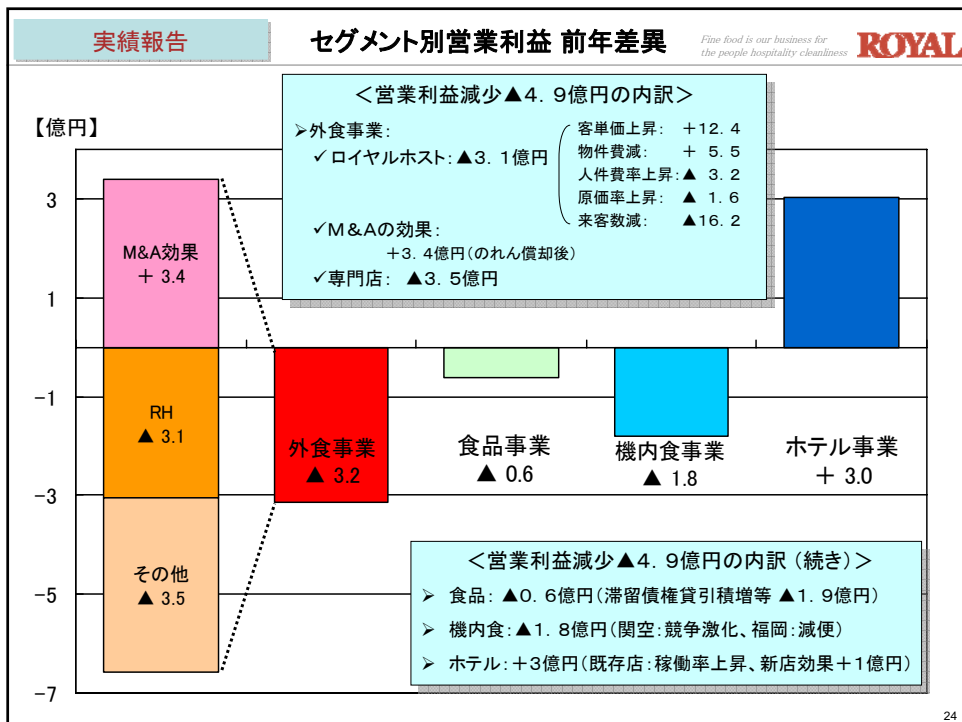
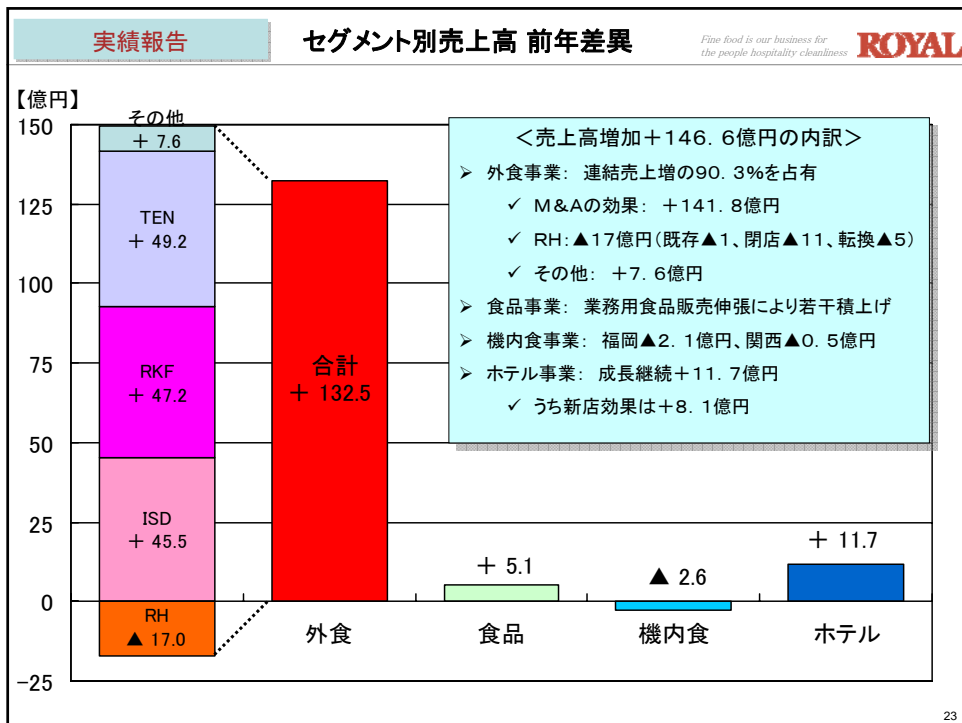
- 外食事業：M&A効果で増収
- 食品事業：業務用食品販売が伸張
- ホテル事業：好調継続・新店効果
- 機内食事業：外部環境悪化

《利益》

ホテル事業は好調、食品・外食・機内食事業が伸び悩み

- ホテル事業：安定した利益率を維持
- 外食事業：人件費・インフラ整備等の負担増
- 食品事業：滞留債権の損失処理あり
- 機内食事業：外部環境悪化

当期純利益はH17税効果特殊要因が解消し差異拡大



Section 5 平成19年度 業績予想

25

業績予想

平成19年12月期業績予想 サマリー

【億円】

連結	H19年度予想	H18年度実績	対前年比
売上高	1,320.0	1,162.0	13.6%
経常利益	55.0	45.6	20.5%
当期純利益	20.0	16.5	21.0%

外部売上高

【億円】

	H19年度予想	H18年度実績	対前年比
外食事業	1,092.0	944.0	15.7%
食品事業	75.0	82.3	▲ 8.8%
機内食事業	64.0	61.1	4.8%
ホテル事業	89.0	74.7	19.2%
合計	1,320.0	1,162.0	13.6%

外食・ホテル事業中心の増収計画 +158億円

- ✓ 外食事業: +148
(テンコーボレーション通年化+50)
(DBレストラン買収+40)
- ✓ ホテル事業: +14 (新店効果+11)
- ✓ 機内食事業: +3 (販売先の拡大)
- ✓ 食品事業: ▲ 7 (内部売上に注力)

営業利益

【億円】

	H19年度予想	H18年度実績	対前年比
外食事業	33.5	23.2	44.7%
食品事業	6.0	4.6	29.4%
機内食事業	8.5	10.0	▲ 15.0%
ホテル事業	14.0	13.6	3.0%
全社・消去	▲ 10.0	▲ 9.6	4.3%
合計	52.0	41.8	24.4%

外食での収益性改善を主とした増益計画 +10億円

- ✓ 外食事業: +10
(オペレーション改善、分社支援の為にフランチャイザー効率化)
- ✓ 食品事業: +1 (利益率改善企図)
- ✓ ホテル事業: +0 (業容拡大に注力し利益は前年並み)
- ✓ 機内食事業: ▲ 1.5 (環境不安定な中厳しい競争継続)

26